

## 【会社紹介】木と共に 42 年 ～新たな時代への取組み～

藤寿産業（株）相澤 貴宏

### <会社沿革>

弊社は昭和 50 年 6 月に創業し、昭和 55 年より造作用集成材の製造を開始しました。福島県の住宅政策により公営住宅の大量供給の時代に品質と安定供給を求められる中、内装部材として年間 1,000 戸を超える部材の供給を行って参りました。

昭和 63 年に構造用集成材の JAS 認定を取得し、当時、建築基準法の規制緩和により中・大規模建築での木造化の可能性が高まる状況で部材の供給を新たに開始しました。社内に木造に特化した構造設計部門を創設し、木構造の設計～施工管理までトータルシステムでサポートを行いながら、中・大規模木造建築の設計、開発、検証を積み重ねて計画案件に対応して参りました。

東日本大震災後の主力工場の移転・増設に並行して積極的な設備投資を行っており、現在も物件対応に特化した集成材工場として、中・大規模木造建築へ高品質な木製品の供給、総合的な技術サポートを行っております。



写真 1：弊社大断面工場内風景

### <新規設備導入>

創業以来、毎年製造ラインの改良や最新機器の

導入等の設備投資を行ってきておりますが、特にここ数年で配置した以下の二つ設備は、マーケット需要に応じてフル稼働中です。

#### 1) 大型全自動 NC 加工機 (CNC 加工機)

→巾 3,000mm、長さ 16M まで対応可能で 3D 図面による CAD/CAM データを基に、大断面材、湾曲材、CLT・LVB 等の加工可能

#### 2) 二次接着用メガプレス

→1,250mm の正角断面、長さ 16M まで対応可能で各種耐火集成材についても安定した品質で製造可能



写真 2：湾曲材加工風景

### <実績>

中・大規模木造建築において、福島県を中心に全国へ 600 を超える納入・施工実績を積み重ねております。幼児施設、学校教育施設、福祉施設、道の駅、集合・交流型施設など多様な施設への対応の中、代表的な物件を以下にご案内致します。

H3 塙町駅舎・図書館（四角錐、円錐連続型構造）

H7 福島県ヒラメ栽培漁業施設（最大スパン 45m・アーチ構造）

- H7 那須霞ヶ城ゴルフクラブ クラブハウス&ホテル (建築面積 9,710 m<sup>2</sup>・旧 38 条大臣認定)
- H16 福島県農業総合研究センター (ドーム型サスペンション構造・4,083 m<sup>2</sup>)
- H24 秋葉山公園県民水泳場 (25,000 m<sup>2</sup>・集成材+S ハイブリット・耐火性能検証法)
- H24 群馬県農業技術センター (一般製材品による面格子シェル構造)
- H28 二本松屋内市民プール (集成材による面格子ハイブリット構造・耐火性能検証法)



写真 3：二本松屋内市民プール

木への愛情・探求を絶やさないうるさなモノづくり、責任施工として特注物件を確実に纏め切る対応力、創意工夫によりヒト・モノ・機械の特長を生かきける柔軟性が藤寿産業の力の源です。

#### <研究開発>

木質化・木造化の更なる推進のために新たな技術開発、新技術の発展に向けた取り組みを積極的に行っております。

- ◎より強度の強い部材の開発
  - プレストレス、ハイブリット部材の共同研究
- ◎より耐火性能が高い部材の開発、製造
  - 都市部の木造化への対応・2 時間耐火部材の開発
- ◎より接合効率が高く実用性のある接合部の開発
  - GIR 工法、HTM 工法の共同研究

- ◎より有用な加工技術、施工技術の発展・推進
  - 耐火木材・CLT 接合開発及び加工機械の共同開発



写真 4：耐火部材による接合部性能実大燃焼試験

#### <現況>

直近では、ハイブリット部材、耐火集成材、CLT を活用した物件への対応に注力しております。現在受注し製造している物件を以下にご案内させていただきます。

- 1) 南東北春日デイサービス (木造ラーメン+CLT 床・壁) ※施工中

林野庁補助事業である CLT を活用した建築物等実証事業で採択を受けた物件であり、CLT 床パネルの施工性、コスト、遮音性、接合工法について検証を行うとともに柱脚金物の規格化を目指した実証を行っております。



写真 5：南東北春日デイサービス現場施工状況

- 2) 大船渡消防署住田分署 (貫式木造ラーメン構造)

- 3) 東京・JR品川新駅の大屋根（ハイブリット部材・福島県古殿産杉材利用）
- 4) 栃木県新武道館（2019 栃木国体メイン会場・ハイブリット部材）
- 5) パラオ共和国海洋養殖センター（弊社初の海外物件）
- 6) 東京・神田神社文化交流館（耐火建築・1時間耐火木造）

#### <今後の展望>

現在、国は「森林・林業再生プラン」の中で2020年までに木材自給率50%達成を掲げており、低炭素社会の実現を目指し国産材の安定供給と需要拡大に取り組んでいます。

このように「エコファースト」の機運が高まる中、地球環境にやさしい生産システムで製造される木材は、今後も世の中で役立つ、必要とされる材料であると考えております。

一方、木を利用するための技術はまだまだ発展途上であり、取り組んでいく課題も多い状況であります。藤寿産業では、今後も技術開発を継続し天然素材である木と先進技術の融合により、木造建築の新しいカタチを模索して参ります。

藤寿産業株式会社

HP: <https://toju.co.jp/>